

Bibliophiles

ビブリオファイルズ No.17(2018年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館



『これで古典がよくわかる』 橋本治

みなさんは古典の「係り結び」をどう現代語訳していますか? 「こそ・・已然形」の、たとえば「春こそよけれ」は? 筆者はこの本で、あえて話し言葉調に「春っていうのが、ホント、いいんだよなァ。」と訳しています。こう訳すと古典の時代が少し身近に感じられますよね。

筆者は1月に亡くなりましたが、『源氏物語』や『枕草子』を現代風に訳して、古典の新しい局面を開いて見せました。古典に苦手意識のある人にこそオススメです。

理科の田村先生からの本の寄贈です!

天文学の分野から柴田一成『太陽 大異変』。もし明日、太陽が1,000年に一度の大爆発「スーパー・フレア」を起こしたら、全地球は停電し、ネットはつながらず、大量の放射線が降り注いで人類は危機に!? 古生物学からは土屋健『ティラノサウルスはすごい』。最強かつ最大人気を誇る、この恐竜の実態に迫ります。ほかにも、先生のお好きな山登りの分野から猪熊隆之『山岳気象予報士で恩返し』などをいただきました。ありがとうございました。

『最強部活の作り方』

名門 26校探訪 日比野恭三
高校日本一に輝いたクラブ。そうした名門 26校の部活動取材し、強さの秘密を探ったのがこの本です。

中心は運動部の取材ですが、「競技かるた部」や「書道部」もあります。また映画『チア☆ダン』のモデルとなった福井商業高校も載っています。

『ぼぎわんが、来る』 澤村伊智

第22回ホラー小説大賞を受賞し、この冬に岡田准一主演で映画(タイトルは『来る』)が公開された作品です。小説も映画も、相当に怖〜い作品ですので、好きな方は心してどうぞ。

乃木坂46のアイドル、高山一実による小説『トラペジウム』も入りました。

『大人も楽しい博物館に行こう』

旅行関連を得意とする昭文社から、これは博物館に絞ったガイドブックです。

たとえば兵庫だと、県立人と自然の博物館(三田)や県立歴史博物館(姫路)。これらは何と高校生以下は入場無料なんです。とてレベルの高い展示が見られます。「行かないと損ですよ!」と声を大にしてお伝えしたいです。

『東大教授がおしえる やばい日本史』 本郷和人

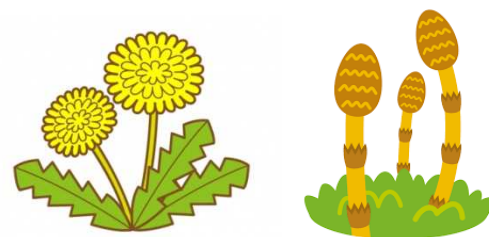
日本にはじめてキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエル。「偉人」のイメージがありますが、実は通訳が「神」を「大日(だいにち)」と訳したので、「大日如来(だいにちにょらい)」のことに勘違いされ、彼は仏教のお坊さんと間違われていたこともあったとか。

このように本書は、歴史を作った偉人たちの「やばい」面や「残念な」面を浮き彫りにすることで、歴史の裏側をのぞいてみようという試みです。イラストも満載で読みやすいですよ。

『ぼくがスカートをはく日』

エイミ・ポロンスキー

主人公の12歳の男の子は、体は男だけど自分の性は女だと自認している「トランスジェンダー」です。学校でやる演劇のオーディションが告知された時、彼は主人公の女神役をやりたいと思ったのですが、全米図書館協会による若者向けの優れたLGBT関連の本「レインボー・ブック・リスト」に選ばれています。



『未来のミライ』

監督・脚本・原作 細野守

新作のDVDが入りました。フランスのカヌ映画祭に選出された話題作で、4歳の男の子がタイムトリップして、未来の妹や過去の母親と出会い、生きることの意味などを学んでいくファンタジーです。館内だけの視聴になりますが、時間のある時に少しずつ楽しんで下さい。

『発達障害グレーゾーン』 姫野桂

発達障害に対する関心が高まっています。大学教授でもある著述家の勝間和代氏のような、「知的な有名人」のイメージがある人までもが発達障害があることを近年公表していますが、あなた自身や身の回りの人はどうでしょうか。

この本は、発達障害の当事者と健常者の中間にある「グレーゾーン」と呼ばれる層を対象としています。実は作者自身がこの「グレー」に当たるそうですが、通常の世界を送りにくい「当事者」と違ってこの層の人は一般に障害を自覚しにくいそうです。ぜひ一読を。

『ネイティブなら子どものときに身につける 英会話なるほどフレーズ100』

スティーブ・ソレイシイ

初版が2000年で、18年以上・42刷を数える英会話本のロングセラーです。筆者はNHKの講師で、日本語の弁論大会で優勝したことがあるほど日本語が達者。明るく軽妙な語り口で、英語の基本フレーズを学べます。

今号のひとこと

Il faut choisir, mourir ou mentir.

「死ぬ」か「嘘をつく」か、ひとはそのどちらかを選ばなければならない。

ルイ・フェルディナン・セリーヌ (1894-1961)

もうじきやってくるエイプリル・フールにちなんでこの言葉を選んでみました。ちなみにフランス語です。

内容的には「ひとはみな嘘つきだ。」という、いたってシンプルなものですが、そんな風にまとめてしまうよりもずっと迫力のある名言ですね。「死ぬ」か「嘘をつく」という究極の二者択一を突きつけられることによって、嘘をつかざるを得ない人間の本性を誰もが実感します。並んだ三つの動詞がir(イール)という韻(いん)を踏んでいるのもリズムカルで、詩的な文です。